

仲間づくり教養コース ②国際社会学

ロシア・ユーラシアのいま

第2回 プーチンのロシア

欧米とは異なる体制とユーラシア外交をめざす

日時 10月31日(土) 10:00am~

場所 ふじみ野交流センター 講座室

講師 堀江則雄氏(法政大学社会学部 講師)

受講生 40名

第2回目の31日(土)は、富士見市全域で「防災訓練」が実施されました。当日訓練役員の方々もおられ、受講人数が若干少なくなっていました。

初回はロシア・ユーラシアについて全般的な講義でしたが、今回から個別テーマに入りました。

I. 「プーチン」とは何者か？

- * プーチンとは、<こわもての独裁者>か<大国ロシア復活の父>か？
- * 1999年大晦日の<事件>エリツインの唐突な辞任と<無名の大統領>に浮上
(KGB中佐、ペテルブルク副市長、首相、大統領代行)
- * 中佐としてドイツ・ドレスデン駐在、サブチャーク市長
- * 大統領令第1号は「エリツイン免責」、タチヤーナなどのセミヤ
- * タダ同然で国有資産略奪、民営化クーポン配布、程ル湖フスキー(ユコス)
- * 第二次チェチェン戦争発動と世界的富豪であるオリガルヒ(新興財閥)排除で政治地盤固め
資産産業・戦略分野の国営化
- * 権威主義的政治姿勢、連邦中央統制強化
- * 石油ガス価格の推移、体制崩壊、経済復興との関連
- * NATO東方拡大、「欧州共通の家」構想の破綻、ユーラシア大国へ
- * 2000年以降の経済復興と「ユーラシア大国」としての復活路線
- * 欧米協調路線から米国の一極覇権への対抗路線へ

ユーラシア外交の展開

- * <アジアのダイナミズムに帆を張って>ロシアを発展強化する
- * EUにならった<ユーラシア連合>構想
- * 2015年1月1日<ユーラシア経済連合>ロシア、カザフスタン、ベラルーシ、アルメニア、キリギスで発足
- * 集団的安全保障条約機構、上海協力機構、ロシア・中国・インド3国関係の緊密化→BRICS重視

* NATO東方拡大や米国のユーラシア介入への対抗



【身ぶり手ぶりで熱心に講義される堀江講師】



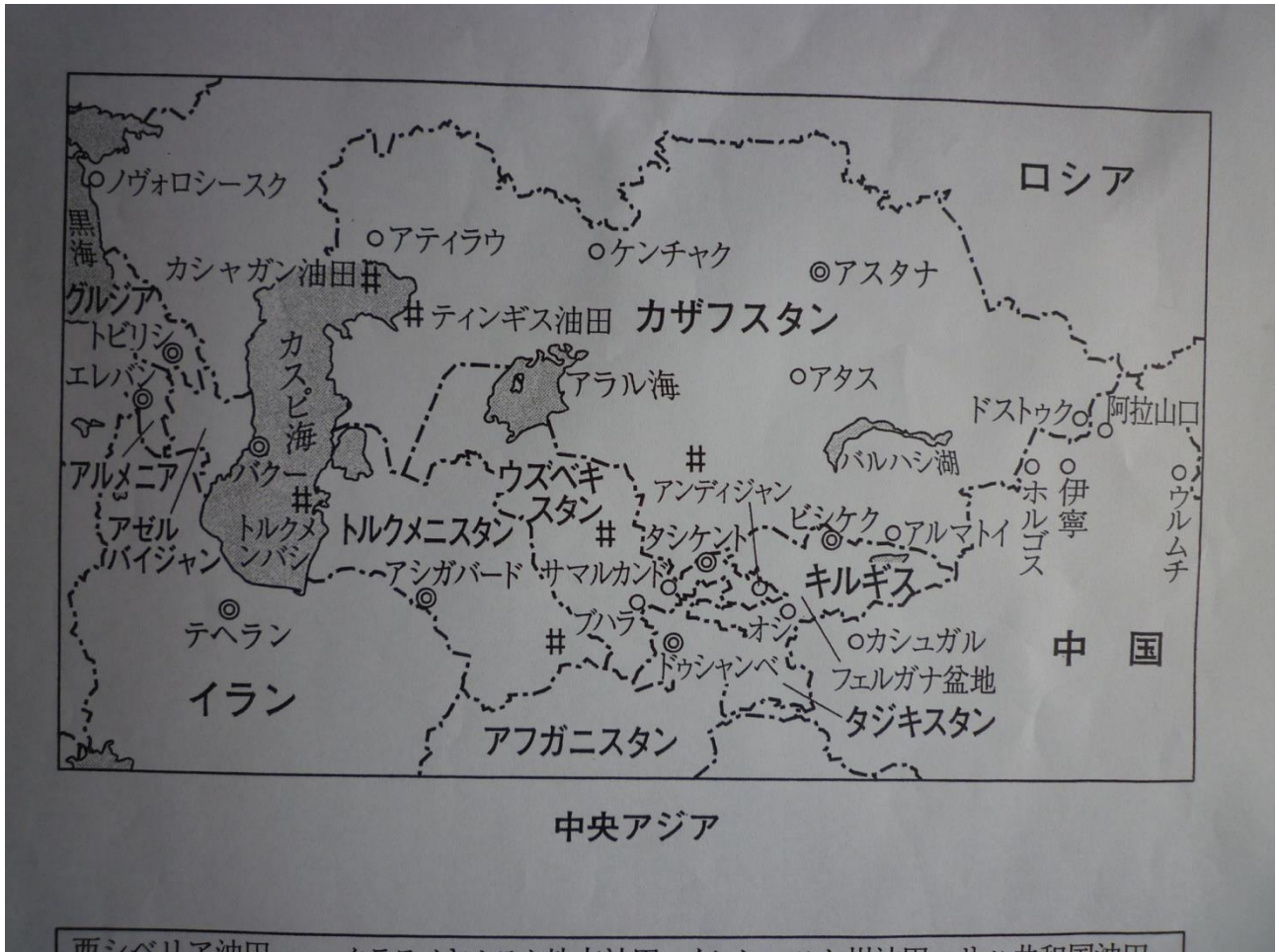
【堀江講師のテンポの良い話に吸い込まれ、熱心に聴き入る受講生】

* G 7 と B R I C S における、人口と購買力平価GDPの対比

	人 口	購買力平価GDP
G 7	1 1 %	3 5 兆ドル
B R I C S	4 3 %	3 4 兆ドル

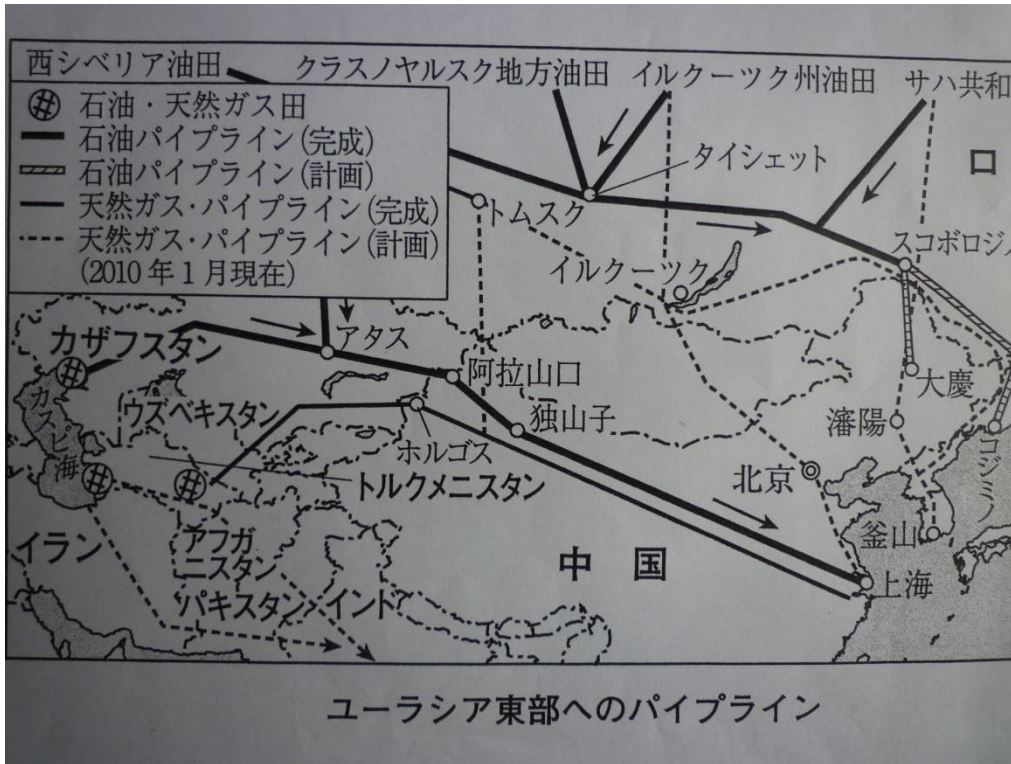
人口・購買力平価GDPとも、B R I C S の台頭が著しい

- ・ G 7 = フランス・アメリカ・イギリス・ドイツ・日本・イタリア・カナダ
- ・ B R I C S = ブラジル・ロシア・インド・中国・南アフリカ



底流に新<ユーラシア主義>の台頭

- * ロシアの対立軸の変容、西欧派對スラブ派→欧米派對ユーラシア派
- * ソ連解体後、ロシアのアイデンティティを<ユーラシア>に求める
- * ロシア社会の思想潮流、社会的気分として存在感、地政学的戦略としての<ユーラシア主義>の復活
- * 1920年代<ユーラシア主義>の登場、チンギス・ハーン評価
- * <タタールのくびき>=モンゴル・ロシア関係の大転換
- * ロシアとタタール・モンゴル→行政・国家制度、言語などの共通性
- * 欧州の衰退とアジアの復興という世界史像、ロシアの優位性



【原油価格の変遷がロシアにもたらした繁栄と影響について説明される堀江講師】

- * チェルコ語から影響を受けたロシア語
- * 印章とかハンコの威力、権威主義的手法、駅伝
- * プーチンの大陸トライアングル構想→ロシア・中国・インドのトライアングル
- 3ヶ国の共通点①モンゴルの影響大
- ②イスラーム（ロシア約2千万人・中国約2千万人・インド 約1億人）

【文責：秋山孝昭】